創立八十周年記念誌発刊に寄せて

校長
菊谷

そのかみはるか域開く・・・と歌われたこの地に本校が開校しわたったのでは、大正十四年四月のことであるはずです。以来、激しく揺れ動く歴史の中で、八十年の時を刻んできましたが、本校が今日のよな社会的評価を得るようになるまでに、幾多の先人の計り知れない苦労とご努力があったこと。

関東大震災後の経済的に苦労していた最中、秋田県立能代中学校として開校できましたが、長年にわたる地元の多くの方々の献身的なご努力とご熱意があったからにあると思います。男子教育機関設立への一途な思い、知事への意見書の冒頭の件「国文教ヲ以テ興り、国文教ヲ以て亡プニ込

戦後、人はその日を生きるのに追われ、他のことに目をお向けする余裕などなかった時代、学制改革を前には、焼失した校舎の再建を切望する学校関係者、同窓会員、地元の方々の四年越しのご努力は見事

老朽化の進んだ木造校舎の改築に当たり、青春を謡歌するには狭隘となった桜山に別れを告げ、